

・ 卷 頭 言 ・

「桜」



(公財)日本植物調節剤研究協会 評議員
デュポン(株) 常務執行役員 農業製品事業部長 後藤周司

高校を卒業するまで山村の自然の中で育ち、山や川の風景や温もりから季節を感じてきましたが、社会人となり東京に出てからは、電車で通勤し、空調の効いたビルで仕事をし、マンションで生活するという人工環境下で過ごす様になり、季節の移り変わりを感じさせてくれる“自然”からは少々遠ざかった環境で生活をしています。それを補う様に、自宅の小さなベランダに花や野菜を植え、近所の神社の桜や銀杏を眺めて季節を感じています。今年も、その神社の桜がピンクで染まり、「春だなあ、新しい年の始まりだ」と心がウキウキしました。わずか一年前のことですが、東日本大震災で津波の爪跡の残る海岸近くの桜が、海水に浸かりながら見事に開花し、被災された方々にとって、復興への希望の力となったことを思い出します。本当に桜の花は日本人を元気付けてくれます。寒々しい灰色の冬山が緑の若葉に覆われ、やがて桜前線が日本列島を春で彩るように覆って来ると、草も虫も人間も活き活きと活動を始める新しい季節の訪れを感じます。

日本には様々な桜の名所がありますが、特に有名なのは、埼玉県北本市の石戸浦ザクラ、福島県三春町の三春の滝桜、山梨県北杜市の山高神代桜、静岡県富士宮市の狩宿の下馬ザクラ、岐阜県本巣市の根尾谷の淡墨桜等で、これらは天然記念物に指定され「五大桜」と言われています。中でも、「三大巨桜」とされる三春滝桜、山高神代桜、根尾谷淡墨桜は、樹齢千年を越え、長寿の象徴でもあります。いつかゆっくり時間が出来たら、これらの桜を見て回りたいと思います。

先日面接した新入社員候補の一人にフェルミ推定が趣味という学生がいました。フェルミ推

定とは、実際に調査するのが難しくとらえどころのない量を推論し概算することです。日本に桜は何本位あるのか、調べても分かりませんでしたので、推定してみようと思いました。日本には野生種と栽培種とを含めて、600種類以上の桜があるそうです。一番多いのは染井吉野で、桜の名所の内約8割は染井吉野を植えているのだそうです。桜の名所で、本数の多いトップ3は、大阪五月山公園の約3万5千本、次に奈良吉野山に約3万本、3位は埼玉狭山湖の約2万本だそうです。調べ始めると、日本全国各地の桜の名所は何千とあり、学校には必ず桜の木があり、色々と推定を試みましたが挫折しました。多分1億本以上はありそう...?です。

桜と言えば、花見の宴会が楽しみの一つです。毎年、桜の見頃を予想して花見の宴席を一年前から予約するのですが、早すぎて蕾見になったり、散って枝見になったり、なかなか満開の時期を予想するのは難しいものです。「世の中に絶えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」しかし、お酒が無くとも、天気の良い日に、そよ風で桜の花びらが舞う桜並木をゆっくりと散歩するのも、穏やかな気持ちになれて良いものです。

桜の名前の由来は、「咲く」に複数を意味する「ら」を付けて「サクラ」となったと言われますが、春になると里にやって来る稲(サ)の神様が宿る座(クラ)であるとして、「サクラ」という説があります。今年も、各地の「田植え桜」や「種まき桜」も満開を迎え、新しい年の農業が始まりました。毎年色々な事が起こりますが、それでも桜は毎年美しく咲いて、我々を元気付けてくれます。今年は、平和で穏やかな実り多い一年になります様に。